2004 No.3

日本心臓財団

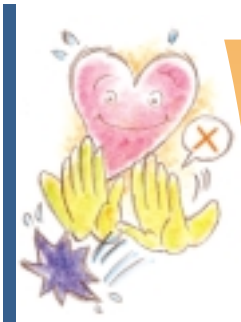
HEART NEWS

ハートニュース

企画 日本循環器学会 教育研修委員会
監修 菊池 健次郎 旭川医科大学第1内科教授
発行 日本心臓財団

高血圧と心不全

高血圧から心臓を守る



高血圧は自覚症状がほとんどなく、放置すると脳卒中や心筋梗塞、心不全、腎不全など、死に至る疾患を引き起こすため、サイレント・キラー（静かな殺人者）と呼ばれています。

心不全とは、心臓のポンプとしての働きが落ちている状態のことで、さまざまな心臓病が最終的にたどりつく病態です。

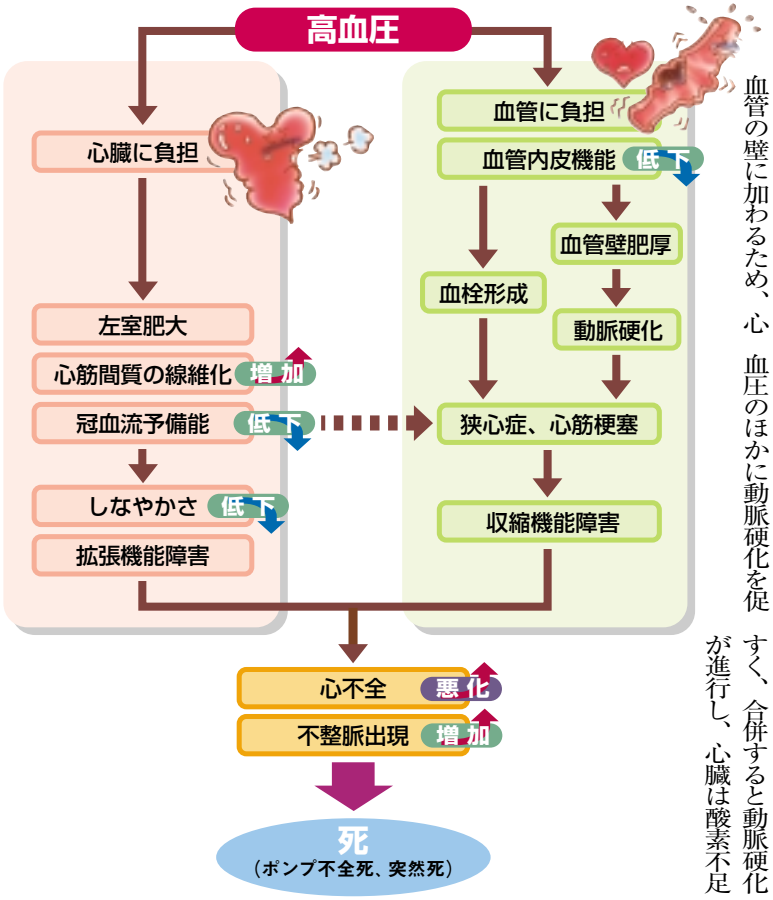
高血圧をきちんと治療することで、あなたの心臓を守りましょう。

収縮機能不全と拡張機能不全

高血圧が続くと、なぜ心不全になるのでしょう。ひとつは正常より高い圧力が血管の壁に加わるため、心臓に血液（酸素）を送る冠動脈の壁が厚くなり、動脈硬化の要因となります。高血圧のほかに動脈硬化を促進するものとして肥満や糖尿病、高脂血症などがあり、これらと高血圧は合併しやすく、合併すると動脈硬化が進行し、心臓は酸素不足による障害、つまり狭心症や心筋梗塞を発症します。その結果、心臓の筋肉（心筋）の働きが低下して心臓を十分に収縮させることができなくなる収縮機能不全を起こすことになります。

もうひとつは、絶えず高い血圧に逆らって血液を全身に送り出す心臓に大きな負荷がかかり、これに対応するために心筋細胞は肥大し、間質の線維成分が増加します。このような心臓では、血液を受け入れる拡張期のしなやかさが低下し、その結果、肺に血液がうっ滞し、息切れや呼吸困難などの拡張機能不全の症状を呈することになります。

後者の拡張機能不全型の心不全は、収縮機能が比較的正常であるため、今まで見逃されることが多かったものです。この拡張機能不全型心不全は高齢者に多く、とくに若い頃から血圧の高い人は注意が必要です。



息切れ 疲れやすさ むくみ などは心不全の赤信号

心不全の症状には、息切れ、呼吸困難、疲れやすさ、下肢のむくみなどがありますが、とくに高齢者では、そうした症状があっても『歳のせい』と思い込み、心不全のサインを見逃してしまうことがあります。軽症のうちに治療すれば心不全の進展を防ぐことができます。また、血圧の高い人は、心臓に負担をかけないよう早期に治療しましょう。

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七〇年に発足いたしました。

当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様のご協力をお願い申しあげます。

財団法人日本心臓財団
〒一〇〇-〇〇〇五 東京都千代田区丸の内三-四-一 新国際ビル
☎〇三-三二〇一-〇八一〇
ホームページ・アドレス http://www.jhf.or.jp/

後援：日本医師会